

メルマガ 「いいテク・ニュース」 季語に遊ぶ 2024年5月21日 (Vol.183)

皁月、水無月に観たい北斎の「富嶽三十六景」と俳句

皁月、水無月に観たい北斎の「富嶽三十六景」と俳句



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Lightnings_below_the_summit.jpg

富嶽三十六景 山下白雨 (さんかはくう)

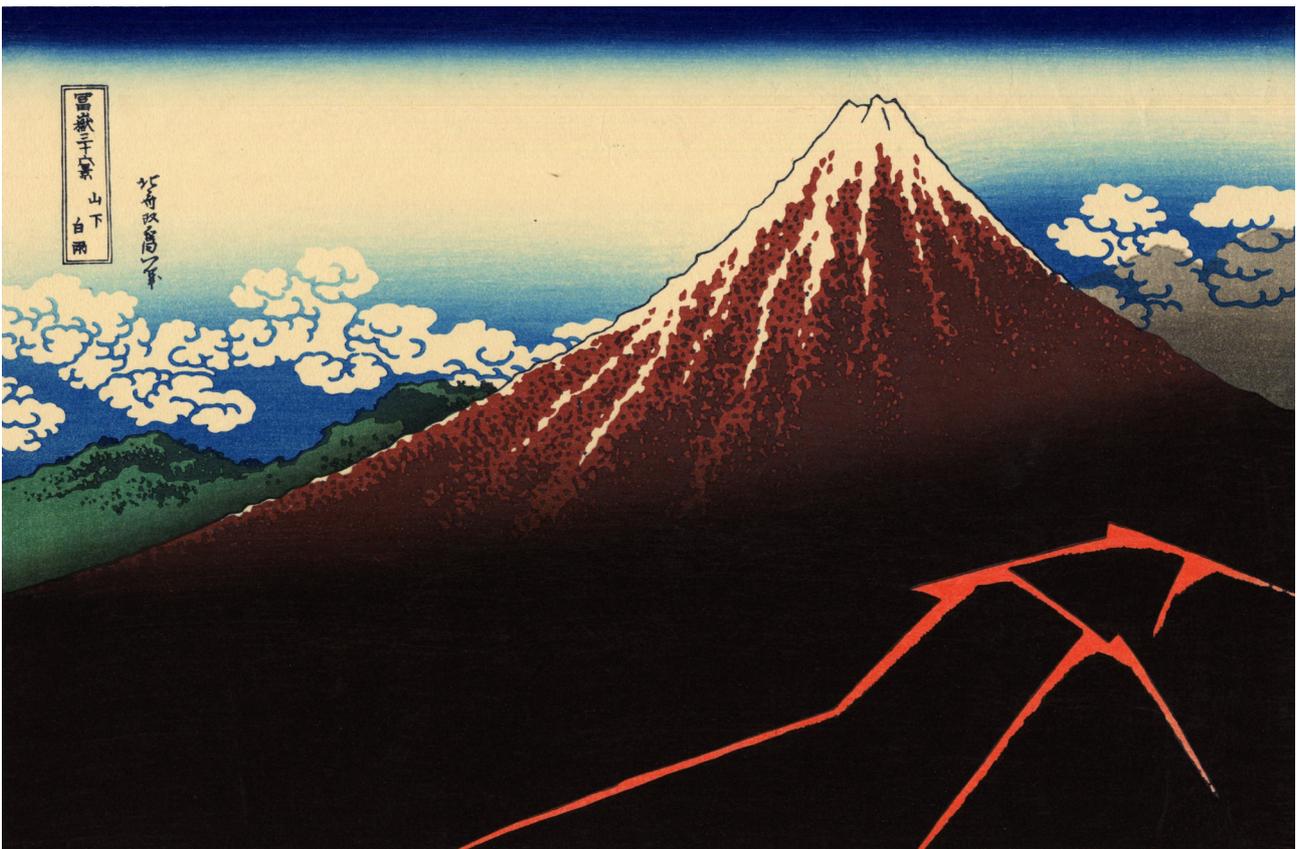
めぐりくる季節に合う名画と俳句、今年は葛飾北斎（かつしかほくさい）（1760～1849）の代表作で、日本美術の歴史を語る上で欠かすことのできない傑作として、国内外の人々に広く愛されている「富嶽三十六景」を紹介しています。
今回はその三回目として皞月、水無月に観たい作品と俳句です。

19世紀後半のヨーロッパ芸術界を席卷した「ジャポニズム」。
その火付け役となったのは、日本からフランスに輸出された陶磁器を包む緩衝材として使われていた「北斎漫画」だと伝えられています。
これがある芸術家の目にとまり、そのデッサン力と多くのモチーフをいくつものパターンで表現する発想力に驚き、それがきっかけで、北斎や広重を筆頭とする日本の浮世絵など彼らの芸術作品が注目を集め、瞬く間にヨーロッパ中に広がって行きました。

フィンセント・ファン・ゴッホ、エドゥアール・マネ、エドガー・ドガをはじめ印象派の名画家たちが心酔し、天才ガラス工芸家エミール・ガレなど工芸の世界で活躍する芸術家たちも北斎や広重の作品の影響を色濃く受けました。

2020年、日本のパスポートが28年ぶりにリニューアルされ、査証ページの背景に「富嶽三十六景」の作品が敷かれるようになりました。
今年、2024年にお目見えする新千円札の裏面に「神奈川沖浪裏」が採用されることになっています。
また、今年3月19日、ニューヨークのクリスティーズで「富嶽三十六景」シリーズ全46図が競売にかけられ、355万9千ドル（約5億3700万円）で落札されました。
まさに今、注目されている「富嶽三十六景」のうち皞月、水無月に観たい作品と俳句をお楽しみ下さい。

1. 富嶽三十六景 三 山下白雨（さんかはくう）



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Lightnings_below_the_summit.jpg

「神奈川沖浪裏」「凱風快晴」とともに「富嶽三十六景」シリーズの三役の一つです。

冠雪で輝く富士山頂付近は快晴ですが、中腹には雲が広がり、裾野あたりは黒で摺られています。雨雲が地上全体を覆い、ふもとはおそらく激しい雷雨になっていることでしょう。

タイトルの白雨は夏の夕立を指します。

白雨は雨脚が太く、日光を浴びたり、雨粒が空中で分裂したり、地面に強く当たるときに上がるしぶきが白く見えることからそう呼ばれます。

この作品は雨の線を描くことなく黒い色だけで夕立を表現しています。

また、画面右下の山腹には、橙色のジグザグ線で稲妻を意匠化し、これだけの描写で強烈な稲妻のエネルギーを伝えています。

「あたまを雲の上に出し 四方の山を見下ろして かみなりさまを下にきく ふじは日本一の山」

と明治時代の文部省唱歌「ふじの山」（巖谷小波、いわやさざなみ、1870-1933）の歌詞がまさにその通りの表現しています。

この絵は「黒富士」とも称されるように、富士山をクローズアップして捉え、画面の半分くらいを黒色で覆う大胆な構図と色遣いです。

現代のように飛行機のない時代にあって、富士山をさまざまな視点から捉えた北斎の力量に驚くばかりです。

ここでは三夏の季語、白雨を詠んだ句を選びました。

木から木へこどもの走る白雨かな

飴山 実

薬師仏白雨はゆめのごと過ぎし

鍵和田 柚子

ここでは、アルプスの風景に多くの題材をとり、アルプスの画家、光と山の画家として知られているイタリア出身の画家ジョヴァンニ・セガンティーニ（1858-1899）の作品を紹介します。

ご存知の通り、アルプス山脈はヨーロッパを代表する山脈で、最高峰のモンブランは標高 4,810.9 m を誇ります。

アルプスのような高山は空気が薄く、描く対象となるものの輪郭が明瞭であるため、風景を単純化して描く印象派風の技法では、高山の風景を描写するには不向きでした。

セガンティーニは印象派の技法を取り入れつつ、澄んだ空気によって明瞭に見える細部までを省略せずに描いています。

そのことにより、山岳の構成など極めて精微に描かれ、絵全体の眺めにも統一性があります。

晩年には、アルプスの農民の悲哀に触れたことによって作品に「哀愁」が表現されるようになったと評価されています。

ここでは彼の代表作『アルプスの真昼』と『アルプス三部作』をあげておきます。



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Mittag_in_den_Alpen_1891.jpg

『アルプスの真昼』（1891年）。セガンティーニ美術館所蔵。



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Giovanni_Segantini_003.jpg
アルプス三部作：生（1898-1899年、セガンティーニ美術館所蔵）

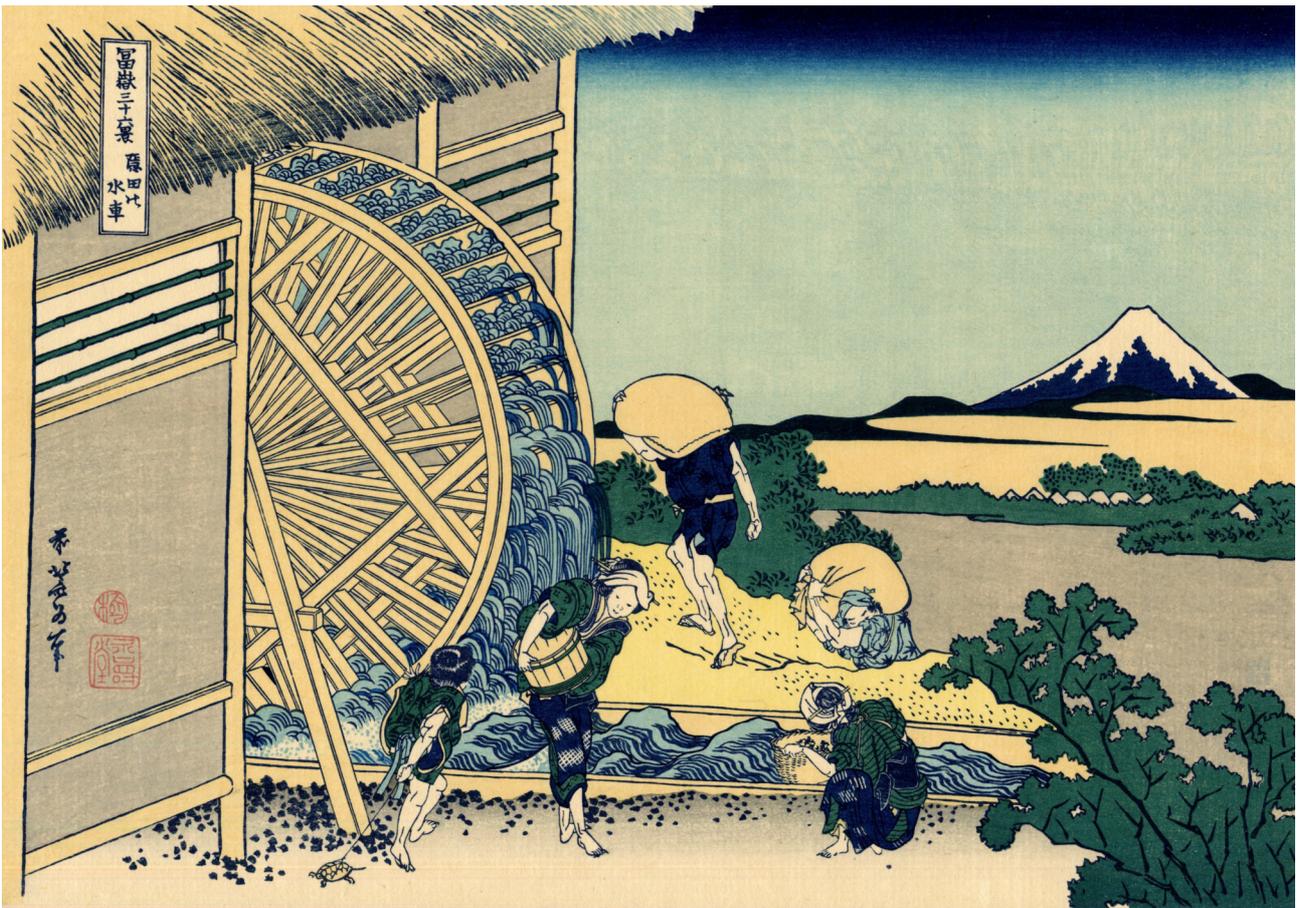


https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Giovanni_Segantini_001.jpg
アルプス三部作：自然（1898-1899年、セガンティーニ美術館所蔵）



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Giovanni_Segantini_002.jpg
アルプス三部作：死（1898-1899年、セガンティーニ美術館所蔵）

2. 富嶽三十六景 三十三 隠田の水車 (おんでんのすいしゃ)



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Watermill_at_Onden.jpg

隠田と呼ばれたこの村は、現在の東京都渋谷区神宮前の渋谷川（今は暗渠工事により遊歩道となり、現在も地下には渋谷川が流れている）の一带です。

江戸時代ののどかな田園風景が広がり、周辺で収穫された稲の精米に水車の動力を使うひなびた農村で、村の中心を渋谷川が流れていました。

現在は、原宿と渋谷を結ぶ裏原宿あるいはキャットストリートと呼ばれる地域で、有名ブランドを中心に個性豊かなブティックが軒を連ねています。

本図は、水車から落ちてくる水の流れて洗う女性たちや、その後方では男たちが穀物が入った重い袋を担いで、水車小屋に向かって登ってくる姿が描かれています。小さな男の子は、忙しい大人たちに相手してもらえず、紐をつけたペットの亀をひいて富士山の方を見つめています。

その富士山は、画面の右奥、薄い灰色で塗りつぶされた田んぼとも畑とも判断がつかない空間の先に描かれていて、あまり存在感はありません。

この絵で北斎が描きたかったのは水車で、まるで図面のように精密です。水車の水受け板には水が溢れ、水の動きを丹念に観察し、水車の回転とともに変化していく水の形をしっかりと描き止めようとしています。

この水車は小高い場所にあるようで、水車の下を流れる水を水受け板にあてる下掛け水車と考えられます。

その場合、水車の高い部分に水があふれることはないのです、そのことは充分承知の上で、絵としての面白さを優先させ、水車の上部に水が滔々（とうとう）とあふれて流れるような表現をしています。

ここでは水車（すいしゃ、みずぐるま）+季語を詠み込んだ句を選びました。

吹かれきて蛍あぶなし水車

正岡子規

季語「蛍」で仲夏

水車廻りあやめ咲かせて住みなせる

渡辺水巴

季語「あやめ」で初夏

水車は人類が開発した最も古い原動機です。

古代から世界のいくつかの地域で利用され、中世以降に、中欧・西ヨーロッパで非常に普及しました。揚水、脱穀、製粉などの農業、食品分野で大いに用いられ、また鉱物の採掘用の機械動力にも使われました。

それは同地域では安定した水量が得られる土地柄もあって水車の利用が活発になり、急激に台数が増えたと考えられています。

西アジアや中国でも製粉や精米用など様々な用途に用いられ、日本でも平安時代にはすでに使われていたことがわかっています。

しかし、18世紀後半から19世紀前半に蒸気機関が普及してゆくにつれ、水車の利用数が減りはじめ、19世紀末頃から20世紀冒頭頃にかけて電動機も普及すると水車の利用は激減します。

しかし、現在でも水力発電において使用されているなど、電力供給の無い場所でも動力を確保できる点がメリットとなっています。

また、近年では温暖化対策の面も持つマイクロ水力発電に多く使われるようになり、水車の利用価値は高まっています。

ここでは「水車」を描いた西洋画をあげておきます。



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Hobbema_-_De_Watermolen.jpg

マインデルト・ホッベマ (1638-1709) 『水車小屋』



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Nikolay_Makovsky_Water_Mill.jpg

ニコライ・マコフスキー（1841-1886）画『シュヴァルツヴァルト（黒い森）の水車』



[https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Vincent_van_Gogh_-_Water_mill_at_Opwetten_\(1884\).jpg](https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Vincent_van_Gogh_-_Water_mill_at_Opwetten_(1884).jpg)

『オプウェッテンの水車小屋』フィンセント・ファン・ゴッホ（1853-1890）

3. 富嶽三十六景 四十三 東海道金谷ノ不二（とうかいどうかなやのふじ）



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:The_Fuji_from_Kanaya_on_the_Tokaido.jpg#/media/%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%A4%E3%83%AB:The_Fuji_from_Kanaya_on_the_Tokaido.jpg

金谷は現在の静岡県島田市大井川の西岸に位置する宿場町です。
大井川は幕府の防衛政策により橋を架けることはもちろん、渡し船も禁止されていました。

そのため旅人は川札と呼ばれるチケットを購入して、川越人足（かわごしにんそく）と呼ばれる専門集団を雇い、画面の手前にみられるように、人足に肩車をしてもらう渡し方と、また経済的に余裕がある場合や、大井川の水位が高い場合は、画面奥に描かれているように連台（れんだい）という梯子（はしご）を水平にしたような物の上に駕籠や旅人を乗せて大井川を越す方法がありました。

川札の値段は、毎朝の大井川の深さと川幅によって定められ、最も水位が低い場合川札一枚が四十八文（約1440円）でした。
連台を使用するためには、川札に加えて台札というチケットを購入しなければならず、台札一枚は川札二枚分の値段でした。

本図は増水し、波が立つ大井川を渡る旅人や人足、渡るため待機している人たちをこまごまと描いています。
数えてみると、総勢百人以上で、「富嶽三十六景」の中でも、最も登場人物が多いにぎやかな作品です。

作品としては人数が多いため、画面がゴタゴタしていて空間の広がり違和感が生じていて成功しているとは言い難いです。
しかし、大井川の水面の藍色のゆるやかな曲線がいたるところで平行に描くことで、水かさが増して大きくうねる水面を表現し、人足のまわりに斑点状の水しぶきを描きこむなど、流れの早い大井川を渡ろうとする人足たちの懸命な動きを表現しています。

ここでは「大井川」+季語を詠み込んだ句を選びました。

五月雨（さみだれ）の空吹きおとせ大井川

松尾芭蕉

季語「五月雨」で仲夏

みじか夜や二尺落ちゆく大井川

与謝蕪村

季語「みじか夜」で三夏

世界で最も文化度が高い川はどこかと考えてみると、それはセーヌ川ではないかと思います。セーヌ川は流域のうち、特にパリの歴史においては、文化や観光に深く関わっています。映画、音楽などの芸術の舞台として数多く取り上げられ、印象派の画家たちにより、多くの名画が描かれてきました。

オードリー・ヘップバーンの主演映画「シャレード」ではセーヌ川観光船でのケーリー・グラントとの夕食のシーンが印象的で、また、「巴里の空の下セーヌは流れる」は映画もシャンソンも流行しました。

その絵画や映画から、セーヌ川はきれいな水質と豊かな流れで、ロマンティックなパリの街にふさわしい川のイメージがありました。

19世紀には泳げるほどの清浄度でしたが、水質汚染が進み、1923年には遊泳が禁止されます。

そのような環境を改善するため、ジャック・シラク市長時代の1984年から、パリ市は「清潔なセーヌ川10カ年計画」を実施します。

その結果、セーヌ川に棲息する魚類が33種類に増えるなど、改善されてきています。

今年のパリオリンピックではセーヌ川は開会式並びにマラソンスイミング（オープンウォータースイミング）の会場として使用されます。

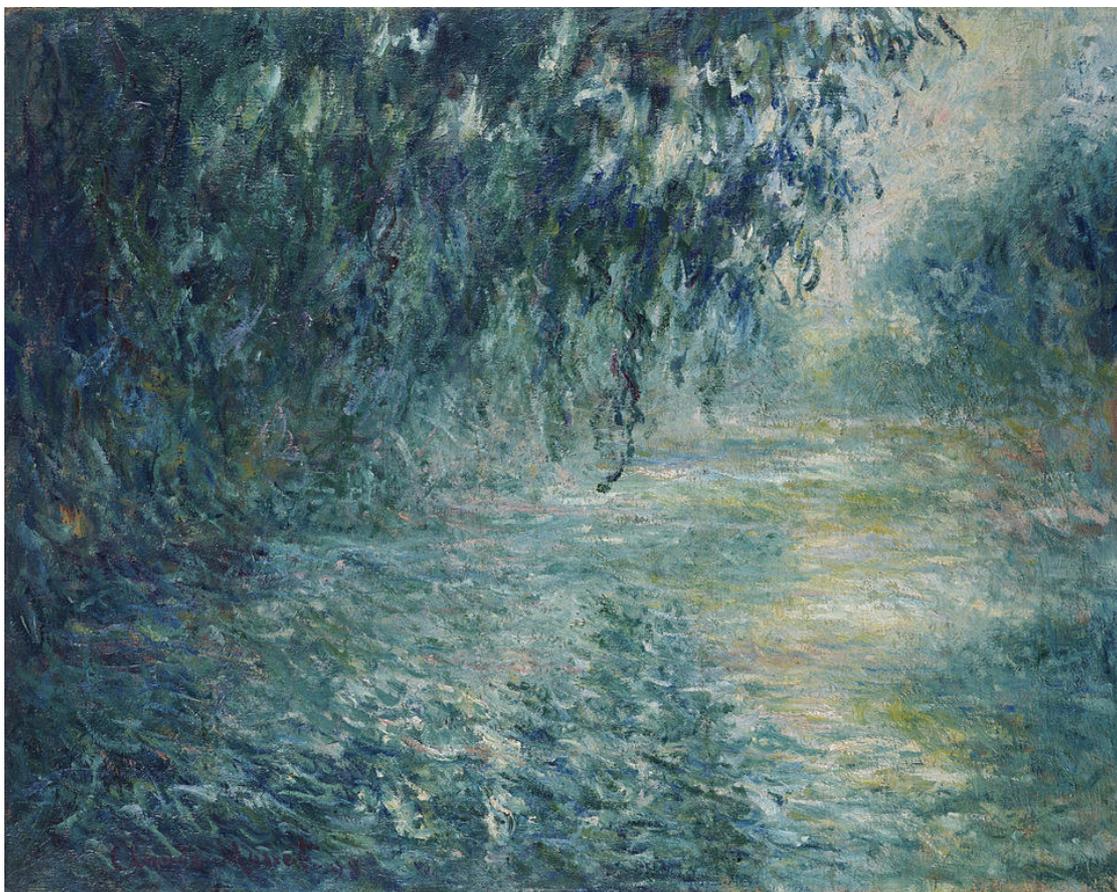
競技場外において開会式を開催するのは、夏季オリンピックではパリが初めてとなります。

どのような開会式になるのか楽しみです。

印象派の画家、クロード・モネはセーヌ川下流のジヴェルニーで暮らし、「セーヌ河の朝」という作品をはじめ多くのセーヌ河畔の作品を残しています。

有名な「睡蓮」を育てた池はセーヌ川支流から水を引いていました。

ここでは、セーヌ川を題材にしたモネの作品をあげておきます。



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Claude_Monet_-_Morning_on_the_Seine_-_Google_Art_Project.jpg#/media/File:Claude_Monet_-_Morning_on_the_Seine_-_Google_Art_Project.jpg

クロード・モネ (1840-1926) 「セーヌ河の朝」 1898年



[https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Claude_Monet_-_Water_Lilies_-_Google_Art_Project_\(462013\).jpg](https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Claude_Monet_-_Water_Lilies_-_Google_Art_Project_(462013).jpg)
クロード・モネ (1840-1926) 「睡蓮」 1916年



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Claude_Monet_-_Regattas_at_Argenteuil_-_Google_Art_Project.jpg
クロード・モネ (1840-1826) 「アルジャントウイユのレガッタ (フランス語版)」 1872 年ごろ



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Claude_Monet_La_Grenouill%C3%A9re.jpg
クロード・モネ (1840-1926) 「ラ・グルヌイエール」 1869 年

「隠田の水車」から連想し、一句詠んでみました。

河鹿（かじか）鳴き水車ことりと刻（とき）廻す

白井芳雄

季語「河鹿」で三夏

本州、四国、九州などの溪流沿いの森林に生息する蛙。
夏に繁殖期を迎え、雄は川の瀬の石や岸边などでフィーフィーと口笛を吹くように美しい声で鳴きます。
その声をめでて、山の鹿に対し、河の鹿といったのが名の由来です。

全体を通じての参考文献、出典：編者 日野原健司

『北斎 富嶽三十六景』（岩波書店）（2020年）
ISBN978-4-00-335811-5

監修・著者 狩野博幸

『葛飾北斎名作100選』（宝島社）（2023年）
ISBN978-4-299-04727-4

監修 永田生慈

『もっと知りたい葛飾北斎 生涯と作品 改訂版』（東京美術）（2022年）
ISBN978-4-8087-1141-2 C0071

飯田龍太・稲畑汀子・金子兜太・沢木欣一監修

『カラー版 新日本大歳時記 愛蔵版』（講談社）（2008年）
ISBN978-4-06-128972-7

茨木和生・宇多喜代子・片山由美子・高野ムツオ・長谷川權・堀切実編集委員

『新版 角川俳句大歳時記 春』（KADOKAWA）（2022年）
ISBN978-4-04-400504-7 C0392

茨木和生・宇多喜代子・片山由美子・高野ムツオ・長谷川權・堀切実編集委員

『新版 角川俳句大歳時記 夏』（KADOKAWA）（2022年）
ISBN978-4-04-400499-6 C0392

茨木和生・宇多喜代子・片山由美子・高野ムツオ・長谷川權・堀切実編集委員

『新版 角川俳句大歳時記 秋』（KADOKAWA）（2022年）
ISBN978-4-04-400500-9 C0392

茨木和生・宇多喜代子・片山由美子・高野ムツオ・長谷川權・堀切実編集委員

『新版 角川俳句大歳時記 冬』（KADOKAWA）（2022年）
ISBN978-4-04-400502-3 C0392

参考サイト：フリー百科事典ウィキペディア (Wikipedia)

最後までお読みいただきありがとうございました。

(株)技術情報センター メルマガ担当 白井芳雄

本メールマガジンのご感想や本メールマガジンへのご意見・ご要望等 melmaga@tic-co.com まで、
どしどしお寄せ下さい。

株式会社 技術情報センター 〒530-0038 大阪市北区紅梅町 2-18 南森町共同ビル 3F

TEL : 06-6358-0141 FAX : 06-6358-0134 E-mail : info@tic-co.com